

# ダルニーフォーラム

第三十九号  
2021年9月

www.edfthai.org/jp

## 2021年度の奨学生からのお礼の言葉

### 奨学金は将来のために勉強を頑張ろうという励みになります。



勉強しているチラワンさん



5人も住んでいる荒れた小屋

チラワン・カムタネット(ニックネーム:ミン)は中学校へ進学するために、EDF財団に手紙を書き、2021年度に奨学金を受けることになった8,067人の生徒の一人です。

現在、ミンはサコンナコーン県にあるバンハイオン学校の中学一年生です。3人兄妹で、一人の兄と妹がいます。ミンは長女です。両親は米と野菜を植え、市場でそれらを販売する仕事をしています。農作業で得たお金は一家の主な収入で、土地を借りる費用、食費、3人の子供の学費、その他の全ての費用を農作業による収入から賄っています。

ミンの両親は職探しのためにサコンナコーン県に移住したのですが、学歴がないので、一家を養うためには農地を借りて農業をするしかありませんでした。

ミンの家族が住んでいる家は農地の中に建てられた荒れた小屋です。その屋根はトタンとベチパー(稲科の草本)で、壁はビニールシートです。雨期に雨が降ると、屋根と天井からの雨漏りでミンの家族はほとんど眠れません。扇風機がないので、夏の暑さをしのぐのは自然の風に頼っています。家にある家電は学校の制服に使うアイロンと一本の魔法瓶だけです。

米作りの時期になると、兄と妹とミンが田植え、肥料やり、そして収穫を行い、両親の手伝いをします。収穫できた米の一部は

家族で食べますが、残りは販売します。それで得られる収入はだいたい1か月で2,000バーツ程度です。草刈りやじゃがいも堀りといった日雇い労働の仕事があれば、ミンと両親はそれを引き受け、それで得た副収入を学費のために貯金します。放課後、ミンは炊事、洗濯、そして皿洗いといった家事をして両親を手伝います。その後、宿題とその日の復習をします。今、新型コロナウイルスの蔓延で学校が閉鎖されていますが、先生が家まで教材と練習問題を持ってきてくれます。

「先生が奨学金をもらえると知らせてくれた時、すごく嬉しかったです。この奨学金で新学期の制服、靴、学用品を買います。」

「奨学金を寄付して下さった方々に本当に感謝しています。このお金で私の勉強に関する両親の負担を軽減できるし、将来のために勉強を頑張ろうという励みにもなります。」

ミンは数学とタイ語の勉強が好きです。小6の成績がとても良く、GPA4.00(満点)でした。将来、ミンは公務員の教師になりたいと考えています。その理由は自分と両親を養っていける安定した職業だけでなく、自分と同じく貧しくて恵まれない子ども達が自立できるように、仕事に必要な勉強を教えられるからです。

新年度2022年度の奨学金募金活動は既に開始しています。新規中学生、高校生共、その奨学金の募集期間は2022年5月31までです。ご友人、知人へのご紹介、皆様ご自身のご支援も含め、新年度も引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます

# コロナ禍におけるタイの教育の状況

タイ国内の新型コロナの感染拡大は収まる様子がありません。8月上旬には、感染者が急増して1万人を超える日が1週間以上も続き、1日当たりの死者は100人を超えています。そのためタイ国内の学校は通常通りの授業を開始できません。1学期はこの状態が続き、最悪の場合、2021年度はこれが通年となるかもしれません。タイ国内の大部分の学校では感染拡大防止のために通学を減らし、オンライン授業を行っています。しかし地方の小規模学校では授業すべてをオンラインで対応することはできません。その理由は、機材が用意できない、インターネット通信がない、保護者が子供の世話をする必要があり、支出が増加するなどの問題を抱えているからです。



オンハンド式で生徒の家に行ってプリントアウトを手渡す

基礎教育委員会事務局はコロナ禍の授業として、各々の学校の状況や適性に沿った4通りの方法を示しています。通学を中止してオンライン授業だけで対応する必要はありません。

- 1.オンライン:Zoom等のアプリを使用したオンライン授業  
生配信の授業で、先生と子供たちは双方向のやり取りが可能。機材、インターネット通信の用意が必要、また保護者のサポートが必要となる。
- 2.オンエア(放送):DLTVという教育チャンネルのウェブサイト、YouTube(DLTV Channel 1-15)、DLTVのアプリを利用した放送授業。
- 3.オンハンド(手渡し):オンライン授業やウェブサイト閲覧の機材を用意できない子供たちに向け子供たちが理解できるレベルの練習問題のプリントを教諭が作成し、子供たちや保護者が何をすべきかを説明する手引き書と共に教諭が子供たちの自宅にプリントを届けるか、子供たちが学校まで受け取りに行く必要がある。小学生の大部分では、オンライン授業に適した年齢に達していないという理由でこの方法が取られている。
- 4.オンサイト(現場):最大限の感染防止対策管理下で通常通りの授業を学校で行う。特に必要性のある子供たちに対しては、学校が所定の対策を行い、少人数のグループにして授業を行う場合もある。

## 教諭への聞き取り

### ブンカーン県 バーンノーンサワーン学校 学校の種類 小学校～高校

「現在、学校は閉鎖されていて2通りの授業をしています。幼稚園と小学校の子供にはオンハンド、中学校、高校の生徒にはオンラインで対応しています。

オンハンド型では教諭が日時を決めて子供たちにプリントを配布するか、教諭が家庭訪問して、保護者がどうサポートすべきかを説明しながらプリントを配布します。保護者が教科の内容を理解できない場合は、頻繁に教諭に電話をするか、近所でサポートができる人を探すことになります。

オンライン型ではインターネット通信が不安定で授業が中断することがあります。オンライン授業への参加状況や授業後の質問・疑問が生じないことから見受けられるのですが、子供たちが学習内容について行けないと授業に飽きてしまいます。また、それ以前の問題で、携帯電話やインターネット通信がない子供たちはオンライン授業に出席できず、保護者が仕事に連れ出したりするため学習に遅れが生じるという不適切な状況も発生しています。学校側では個別に可能な方法で授業に出席させるようにしています。例えば、機材を持っている近所の子供と一緒に学習してもらいます。」

### ウィチャヤナン教諭

教諭はさらに続けました。「基本的に子供たちは登校することが最善であり必要なことです。友達に会いたいです。友達と一緒にご飯を食べたり、運動や他の活動を友達と行うのは一日中家にいるより幸せを感じます。また、小さい子供がいる家庭では子供が自分のことを自分で対応できないので、保護者はさらに大変になります」

#### 年末プレゼントキャンペーンのご紹介 子どもたちにプレゼントを贈りませんか。

EDF(ダルニー奨学金)はタイ東北地方の農村部に住んでいる恵まれない子どもたちがご自分の奨学生に贈るクリスマス・お正月プレゼントセットのご注文をお受けいたします。このキャンペーンは2021年1月20日まで受付しております。ご興味のある方は同封の申込書をご利用ください。よろしくご願ひ申し上げます。